



おとうさんありがとう

私は昔からやんちゃで親に迷惑をかけ、あげくにいじめが原因で私立の名門学校を退学になり、その後、親に勘当され、波乱万丈の人生をおくってきました。

そんな私も今では子供たちも自立し、両親の介護もさせていただき、親孝行をさせていただく毎日を送らせていただいています。

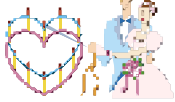
ところが壮年をむかえて見渡してみると、最近昔の自分に似た若者に関わっていることが多いことに気づきました。

この間もある青年に恋愛の相談をされて・・・。

結婚したいと焦る青年。青年はまだ仕事を始めたばかり。

「ゆっくり歩きなさい。彼女との間を取り持つてあげろ。つれておいで君の気持ちをは伝えてあげる。」

その言葉をいいながら自分



の昔を思い出しました。

店をやっていたあの日、父は私に同じ言葉を言ってくれていました。

私は助言を聞かず家を飛び出したものでした。

青年にアドバイスをしながら私は心の中で

「おとうさんごめんなさい。ありがとう」と言っていました。

おとうさんありがとう。そして気づきにくれたO君ありがとう。

(宮崎県/Y・T)

もりの神木にありがとう

妻の実家にはだれも立ち入らない森があります。

もともとはみかん畑だったそうですが、鬱蒼とした木立に覆われています。相続が原因で親族間で争いになり、その土地が境界となつて放置されたのです。

それから100年・・・。

その土地を妻が相続させていただきました。

ある日、その森に隣接した土地に住んでいる元は争いの当事者であつたおばさんから電話があり、日が当たらないからなんとかしてほしいとのお願いがありました。

先々代の時から頼んでも何もしてくれないと少し不満そつに訴えられます。

そこで我々夫婦はボランティアの林業隊の方にお願いして100年ぶり

にその土地に足を踏み入れ伐採をはじめました。

伐採がはじまり、見ると森の中央に竜神様にも似た弦が巻き付き異なる個体が共存する大木があらわれま

した。その周りにもおなじような木が見当たりません。

その木からのメッセージを聞いたような気がします。

「人は支えあつて生きています。一人では生きてはいけません。手を取り合つて仲良く生きなさい。」



その神木は伐採せずに残しました。

今では森に日が入り植物の生態系が変わりました。

そして親類との縁も変わりました。緑に生い茂り育つ植物を見てそのたくましさを感じさせられました。

そしてこれから生きていく勇気をいただきました。

その土地を残してくださつたご先祖様ありがとうございました。

森をまもつて下さつたご神木さまありがとうございました。

(袖ヶ浦市/Y・H)

となりのおじさん

多くはないのですが、年に数回、出張で大阪へ行くことがあります。

帰りはだいたい最終便かその一本前といった、あわただしい日程がほとんどで、疲労もたまりませんが、新幹線に乗るだけでもいまだにわくわくする私はたまの出張を少し楽しみにしていました。

大阪へも何度か通ううちに、帰りの新幹線に買い込むものも固定化してきて、大分余裕がでてきたな・・・と最近は何となく思っていました。

先日大阪へ行ってきました。私はいつも通り帰りに肉まんやら色々買い込み、遅い夕食を車内で食べました。

食べ終わってからはひと眠りしても、降りる手前で自然と目が覚めるまでになつていた私は、いつも通り気持ちよく眠りにつきました。

しかし、疲れがたまつていたのか気持ちよく眠りすぎて、気がついた時にはもう駅についており、あわてて荷物を持ってホームへ降りました。

何とか間に合つたなあ・・・とホッとしたり時、車内から声が聞こえます。

「忘れもの！しつかりせいで！」ときつい口調ながらもさわやかな笑顔で言われました。

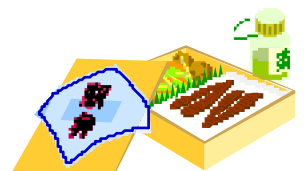
あわてて出て行った私が忘れ物をしたのに気づいて、隣のおじさんが急いで持ってきてくれたのでした。

私は、あわただしく自分の姿を見られていたことに恥ずかしさを感じながらも、おじさんに「ありがとうございます！」と、なんとかその場でお礼を言うことができました。

おじさんありがとう、あれは家族へのお土産で、みんなが楽しみにしていたものでした。

今度からは、時間に余裕も持つよう気をつけます。

(横浜市/T・O)



送ってくれて

ありがとう

今年の春から地方の大学へ入学しました。初めての一人暮らしに加えて地方の大学と言うこともあり、東京育ちの私には色々戸惑うことが多く、最初の頃は大変でした。



夜中にコンビニに行くにしても自車で30分かかる、電車が1時間に1本しかない、そもそも地元の人は一入マイカーを持っているのが普通・・・私自身も、入学してから時間を見つけてなんとか自動車免許を取得し、どうしても必要だからと親へ実情を訴えお金を借りておんぼろながらもマイカーを手に入れました。

日常の移動はやはりマイカーがあると便利ですが、帰省の時などは、大きな駅まで車で行っても置く場所がないため、戻って来た時は1時間に1本の電車を待つしかありませんでした。夏の帰省が終わった頃、自然と似たような境遇の人同士、お互いに車で送り迎えすることが始まりました。夜中でも、誰かに連絡がつけば送ってもらえる安心感は非常に大きいものがあります。

先日、急遽実家へ行く用事が出来たのですが、行きも、そして深夜の帰りも友達を送ってくれました。通算では送ってもらってばかりですが、私もみんなを送る側に回りたいたいです。

皆さま、どんどん声をかけて下さい。持ちつ持たれつ、助け合いの大事さに気づかせてくれてありがとう。

(福井市/R・I)

夏休みの思い出に

ありがとう

先日、たまたま連休が取れたので旅行に行きました。

特に目的もなく、予定も決めずにふらふらとどこかに行ってみようという無計画な旅でした。

その時、コース的に祖母の家に寄れることに気づき、泊めてもらうことにしました。

祖母とは一晩だけでしたが、色々な話を聞いて、ゆつくりと過ごしました。

思い返してみると、小学生の頃の夏休みには毎年祖母の家に1週間ほど滞在して遊ぶのが恒例の行事でした。久しぶりの祖母の家は、そんな夏休みの思い出を思い起こさせてくれました。

その頃は、祖父もまだ健在でしたが、今は祖母は一人で暮らしています。久しぶりに会った祖母はまだまだ元気でしたが、すこし足が悪くなったようです。

「これからも機会を見つけては遊びに来るからね」と約束して今回の旅行は終了しました。楽しい夏休みをくれてありがとう。これからもお元気で。

(横浜市/S・O)

落ち着いた時間を

ありがとう

先日、友達と二人で陶芸体験に行ってきました。

友達は以前より周囲の人に勧められていたようで、良い機会だからと突如行くことを決めたものでした。

車で2時間くらいの山中に、陶芸体験をさせてくれる窯があり、約1時間半位をかけて2つの器を何とか形造りました。

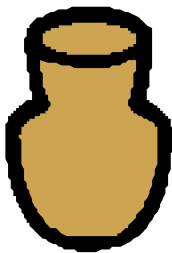
当然「ろくろ」を使ったことなどなかった私は悪戦苦闘の連続でしたが、窯の人は懇切丁寧に粘り強く教えて、難しいところは手伝ってくれました。

そんな助けのおかげでなんとか使えるようなものができたのでは・・・と焼きあがって送られてくるのを今から楽しみにしています。

しかし、それ以上に器を造っている時間は何とも言えないほど落ち着いた気持ちのいいものでした。

「泥んこ遊び」をすると童心にかえるのと同じように、土を触っているととてもリラックスした気分になれることに気づきました。

(横浜市/T・O)



【原稿をお待ちしています。】
本誌は北海道から沖縄までの友人知人から寄せられた思い出の写真を「ありがとう」のコーナーに載せたいと思います。投稿は編集部に送ってください。投稿は「ありがとうマガネ拭き」をプレゼントさせていただきます。皆様からの投稿をお待ちしております。また、ご自分のお名前や事業所名を刷り込んで、身近な方やお客様へ配布される見やご提案がございましたら是非お聞かせください。



【携帯 Deショット】
真夏にこの樹の前を通ったときは、ビッシリと紋白蝶が群れるように花が咲いていた「ヤマボウシ」。先日通ったときには時表面はサッカーボールのような模様の真っ赤に熟れた実が重たげに捻っていた。花言葉は「友情」。食べると仄かに甘かった。

携帯電話の方はQRコードから
パソコンの方は下記のURLから
<http://1039.seesaa.net/>
メールでのご投稿は...
info@holonics.gr.jp
【編集・企画】株式会社水ロニックス総研・編集部

